

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学級およそ8割以上の児童が歌詞の内容を思いうかべながら、ふさわしい表現で歌う技能が身に付いている。
- ・授業中の発問への答えやワークシートの記述などから、各学級のおよそ8割近くの児童は音楽の様子を感じ取ったり、楽器の音を聞き取ったりしながら音楽を聴くことができる。
- ・一時間のめあてを意識して授業に臨んでいる姿が見取れる発言が各学級で見られる。

(2) 課題

- ・主に器楽において基礎的な演奏技術が身に付いている児童がいる一方で、苦手意識をもっている児童が各学級2割程度はいる。
- ・なぜそのような表現にしたか、などの意図や思いを発言できる児童は高学年でも全体の2割程度にとどまっている。
- ・毎時間のめあては意識できているが、題材全体の見通しをもって授業に取り組むことが難しい。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身体表現を使って音程やリズム、拍の感覚を身に付けられるようにする。また、反復練習や階名唱などの基礎的な学習にも身体表現を使い、児童が楽しみながら基礎的な演奏技能を身に付けていけるよう支援する。	・児童が感じ取った曲想や歌詞の内容などをもとに、いろいろな表現を試してみたり、体験したりする場面を設定する。そして児童の表現の変容を具体的な言葉で伝えながら、学級全体で様々な表現の価値を言語化して共有できるよう授業を展開する。	・めあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・毎回の授業で最後にふりかえりの時間を設定し、児童自身が本時のめあてと達成した学びをつなげて確かめられるようにする。また、それを次時へつなげていくような声かけを授業者が行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に個別で指導する時間を設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。 ・範唱や範奏を聴いて真似する活動や、反復練習などを取り入れることを通して、児童が自分の思いや意図に合った表現を実現するための技能を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや全体で歌詞の内容や曲想についての意見交換を行う。そしてそれを生かすためのスタッカートやレガート、強弱や速度などの違いによる表現方法を実際に試し、表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、なぜそのような表現にしたかを再度言葉で説明する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・毎回の授業で最後にふりかえりの時間を設定し、児童自身が本時のめあてと達成した学びを確かめられるようにする。タブレット端末を活用し学級全体で次時への学習につながっていく意見を共有する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に個別で指導する時間を設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。 ・階名唱、運指の確認などの基礎的な学習を継続的に行い、技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの意見交換や全体での意見交流などにより曲の特徴についての理解を深める。そしてそれらを生かすための様々な表現方法を試すなどして表現を工夫する楽しさを味わいながら、思いや意図を膨らませるようにする。また、表現方法を互いに聴き合ったり、思いや意図を説明したりする場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・毎回の授業で最後にふりかえりの時間を設定し、児童自身が本時のめあてと達成した学びを確かめられるようにする。タブレット端末を活用し学級全体で次時への学習につながっていく意見を共有する。